



学級が機能しない状況の解消 ～「学級崩壊」を立て直す～

学級の子どもが私の指示を聞いてくれなくなって、いわゆる「学級崩壊」のようになってきました。子どもとの関わり方に自信が持たなくなってきました。

「なれ合い型」学級崩壊といわれる例

前年度の学級指導の反動が、次年度に表れることもよくあります。



「ルールは先生の気分次第」という空気

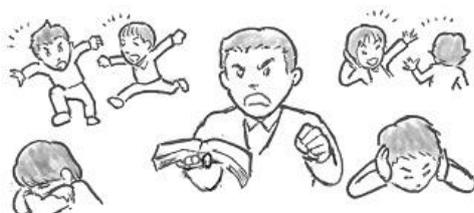
学級は多様な子どもと秩序をつくっていくもの。その過程で問題が起こるのは自然なこと。しかし、指導に従わず、授業が成立しなくなるような状況は解消したいです。

- (1) 抑えつけからの反動「反抗型」
管理重視で不安や緊張が内在、リバウンドした学級。
- (2) 友達感覚の運営「なれ合い型」
個々との関係に偏り、集団が育たなかった学級。

「学級がうまく機能しない状況」の未然防止



私語・気を引く言動・悪ふざけが増えて...



不満・陰口・ルール無視・いじめ・反発に発展

(1) 子どもが担任に求めること

①一貫性と平等感

子どもに言ったことを貫く。「先生は言ったことにこだわらない」と感じると、担任の言葉の力が低下する。子どもは平等感を求めながら、自分のことを見てほしいとも願っている。矛盾した両方の欲求に応じる。

②受容性と規範性の両立

受け止めてくれる安心感（優しさ）と正しい方向に導いてくれる信頼感（強さ）が担任信頼の基盤になる。

③おもしろい授業

分かりにくい授業や教え込みの授業に耐えている学級は崩れやすい。興味を持ちながら子ども同士が学び合える授業が学級集団を育てる。

(2) 子どもの社会性を育てる

他者と向き合えない、親の前でだけ「良い子」になる等、社会性が未熟な子どもが増加。低学年は「感情理解」を、中学校は「問題解決」をねらって、心の教育やソーシャル・スキル・トレーニングを取り入れる。

学級が機能なくなる要因は複合的で、立て直しの特効薬はありません。しかし、子どもとの共同作業を回復する様々な実践が試みられています。紙面では断片的な紹介しかできませんが、参考文献を手にとられる機会があればよいと思います。

社会性を育てる取組で問題行動が減少 — H22 岡山県総社市 —

子どもの社会性を育てるプログラムを立て、問題行動の未然防止に成果を上げている取組例があります。

- ①社会性や情動の学習：ストレス・マネジメントや対人関係スキルを年10時間、12年間系統的に学習する。
- ②ピア・サポート活動：仲間が仲間をサポートする援助活動を異年齢間等で実施する。
- ③協同学習：学習意欲を高めると共に、対人関係スキルを実践。
- ④行動指標：月別行動テーマを、家庭・地域と連携して行動化。

(成果) 総社市の中学生の検挙・補導者数
(H21) 205人 → (H27) 7人

総社市の中学生の不登校出現率
(H21) 3.77% → (H27) 1.66%

- 【参考】 『なれ合い型』学級崩壊が急増 『反抗型』影潜め 産経新聞 2006年10月13日 (HP)
『学級再生』小林正幸 講談社現代新書 (絶版)
「だれもが行きたくなくなる学校づくり入門」総社市教育委員会 平成27年10月 (HP)
「学校運営等の改善を図るための指導事例集」埼玉県教育委員会 平成14年3月 (HP)

個別支援の例 — LD 児への支援 —

- ・読字障害、書字障害、算数障害のどの状態か、アセスメントに基づいて支援する。
- ・成功が見える工夫をして、成就感を持たす。
- ・友達に認められる機会を設定、自信を持たす。
- ・手順を音声で確認、ICT 使用等、支援を工夫。
- ・努力不足と誤解がないように啓発、必要に応じて友達の援助や協力が得られるようにする。

「学級がうまく機能しない状況」からの立て直し

(1) 学校全体で学級を支援する

閉ざされた集団で悪循環が固定化すると、構成員で解決するのは困難です。外部からの力が必要になります。

①個別対応のための教員複数体制

複数配置でパニック対応や個別指導の対処。クールダウンで終わらず、個別に何をするかの見通しが大事。

②すべての教員で学級の肯定感を高める

教員は対象学級の子どもをその場でほめ、担任に報告。担任は即日学級で紹介し、その子をほめて認める。

③異年齢学年との活動

6年生が3年生に読み聞かせる等、上級学年にとっては自己有用感、下級学年にはモデルの獲得をねらう。

④要支援の子どもの保護者と実態を共有

ビデオ等を利用して、家での姿と集団でのギャップを知ってもらう。批判ではなく、協力関係をつくる。

⑤保護者・地域の具体的な支援(例)

行事準備に保護者も参加。高校生と交流事業。行事の個人目標を知らせて、励ましほめてもらう。

(2) 学級集団・授業を立て直す

①授業が成立しない状態からの立て直し

2～3人のグループで対話や作業をしないと進まない授業にする。別室少人数の授業で学習意欲と持続力を持たせる。その他、学習に引きつける工夫を。

②集団の育成

行為の善悪はあいまいにせず指導する。一方、話し合う場をつくり、共にルールを考え定める。

③個別相談の機会を増やす

問題を起こしがちな児童生徒だけでなく、全員に平等に個別に教師と出会うチャンネルを開く。

(3) 問題行動の指導

①1対1で、その子どもと本気で向き合う

1対1で本気で向き合う。児童(生徒)が先生を担任として認め、担任が子どもを児童と認める関係が大事。

②本心にある感情や願いを語れるように援助

「何でそんなことをした？」は下手な聴き方。寄り添いでなく、追い詰める言葉になりがち。「今どんな気持ちでいるか・何を考えているか」「本当はどうなりたかったのか」と真意を汲み取る。その上で「次どうするか」を考えさせる。

③1つ叱って、3つほめる

話を十分に聞いてやり気持ちを受け止めることと、ダメなことはダメと指導すること。どちらが欠けてもうまくいかない。叱った後は、フォローする関わりを。

④挑発には、同じ土俵で本気にならない

反抗やルール無視で試してきた時は、厳しく叱ることも必要。挑発は、冷静にいなす、ユーモアでかわす。

(4) SC等、専門家から関わり方の助言をもらう

本心にある不安を取り除くことから、子どもはようやく自信や自律、共存に歩み始めます。



結果は変わらなくても、負の気持ちを受け止めてもらうことで、幼児期に心の安定が育ちます。



児童期、青年期、成人でも、同じですね。

子どもは、反抗しながら受け止めてほしい。反発と甘えの気持ちをぶつけてきます。受け止めてくれる手応えがある担任を求めているのではないのでしょうか。



担任として、児童生徒として、互いに認め合う関係をつくるために。

保護者会は諸刃の剣
非難や不満を出す場になると、解決困難な影響を残します。未来に向けて何をめざすか、そのために何をするかの話し合いになるように、十分な構想や準備をする必要があります。